



サステナビリティ日本フォーラム

この夏、Sus-FJ の仲間とバリューチェーンの上流を訪ねよう ‘大人のサマースクール’

「新興国で持続可能なビジネスモデルを考える～サステナブルカカオツアー～」



STORY

外資系金融でアナリストだった吉野慶一さんがぶち当たった人生、転機の壁。それは、カカオの価格がロンドンやNYの国際市場で決まり生産自身が価格決定に関与できないという事実



その事実と向き合い、産地育成からチョコレートづくりに関わることを2011年に決意し、DARI・Kを創設。ここまではよく耳にするキャリアチェンジのサクセスストーリー



農業ド素人が問題の本質を見抜き、「農家の収入=カカオ生産量×販売価格」に対して生産量と価格の両方を上げることにチャレンジ

生産者の「変革の意思」を支援し、現地の人々が自分で取り組むきっかけづくりに注力したのが吉野さん流



さまざまな苦難を乗り越えて、スラウェシ島バンタンエンで奮闘する吉野さんに現地コーディネーターいただきながら「新興国で持続可能なビジネスモデルを考える～サステナブルカカオツアー～」でバリューチェーンの上流を巡ります



CSR keyword

- ・児童労働がない
- ・無電化地域
- ・ステークホルダーとの関わり
- ・付加価値
- ・生産性向上
- ・農家の意識改革
- ・気候変動の影響
- ・コミュニティの安定性



Condition

- ・インドネシア スラウェシ島
- ・開催日は2016年7月16日(土)～22日(金)7日間
- ・参加費はお一人
325,000円 (Sus-FJ 会員価格)
- 往復EC航空運賃、燃油諸税、宿泊費(2名1室)
現地交通費、食費、視察体験費含む

今年のエコツアーは「持続可能な調達」をテーマにインドネシア スラウェシ島のカカオ農家や無電化地域を訪れます。17,000の島からなるインドネシアは、世界で最も生物多様性が豊かだと言われていますが、人口は約2億5,000万人で世界第4位、約半数は都市に住む一方でパーム油などの農作物の生産量は世界一です。また、1960年代には行っていなかったカカオ生産は、今では世界第2位となっています。

有識者(会長の木内孝、代表理事の後藤敏彦に加え河口真理子評議員他)とバリューチェーンの上流を訪ね、CSR活動のヒントを持ち帰っていただきたく思います。なお全行程にはDari K 吉野慶一氏が同行し、これまでの工夫や苦労点についてもお伺いします。

参加者紹介



DARI・K 吉野さん



リボン 壺岐さん



Sus-FJ 会長木内



Sus-FJ 代表理事後藤



Sus-FJ 事務局長蘭田

